



令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

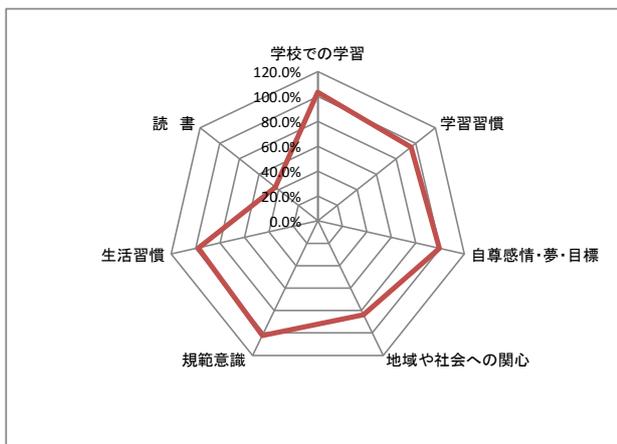
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	漢字は読めているが、語句の意味を理解したり語句を正しく選択したりすることを苦手とする傾向があり、全体的に語彙力が不足しているといえる。また、ケアレスミスと思われる誤答が多い。ただし、記述を苦手としているわけではない。	下回っている
数学	関数や資料活用の問題は正答率が高かったが、図形の問題は苦手とする傾向が見られた。また、ケアレスミスと思われる誤答も多く見られた。記述式の問題は、全国と同じように正答率があまり高くないが、全国平均を上回る正答率が複数ある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・「学校での学習」に関する項目では、これまでの学習の仕方を肯定的にとらえた回答が多い。また、「自尊感情・夢・目標」や「規範意識」に関する項目の肯定的な回答の数値も高く、これらが落ち着いた学校生活につながっていると思われる。
- ・本や新聞などの活字にふれる生徒の割合、読む時間ともかなり少なく、長時間ゲームをする生徒の割合が多いことが、学力調査の結果に影響している可能性がある。
- ・朝食を毎朝食べると回答した生徒の割合が以前に比べ減っており、授業に対する集中力への影響が懸念される。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・国語科に限らず、全教科で教科書の記述の意味をきちんと把握させるなどの指導、確認を行っていく。
- ・本年度、本校が取り組んでいるNIEとも関連させて、新聞を活用した語彙力や読み取る力の向上を図る。
- ・正答率の低かった領域の内容へは、基本的な問題に繰り返し取り組ませることで、苦手意識を払拭させていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学校からの各種通信や保護者懇談会等様々な機会を通じて、生活リズムの安定と読書や家庭学習の習慣化など、一つ一つの積み重ねが心身の成長や学力の向上にとって大切であることを発信し続けていく。
- ・ゲームやスマホなどの上手な利用の仕方と、各家庭でのルール化を引き続き啓発していく。